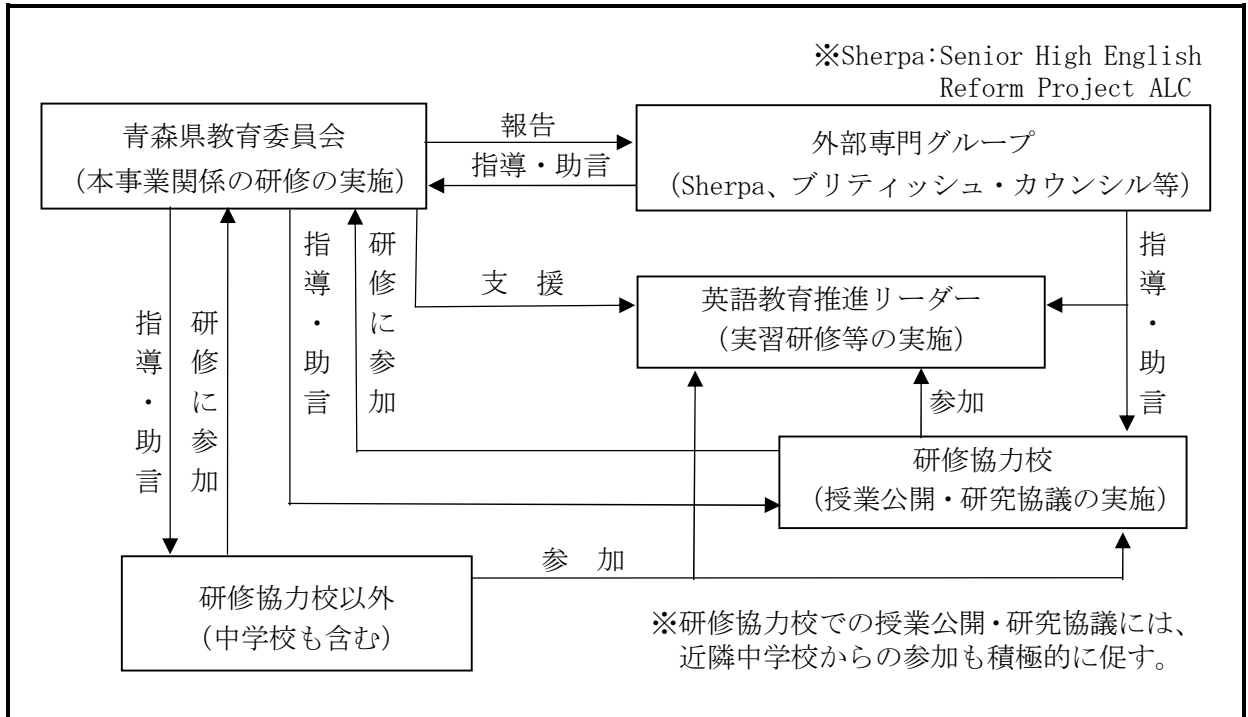


青森県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

※現状は、平成27年度英語教育実施状況調査の結果に基づく。

①求められる英語力（英検準1級程度以上）を有する担当教員の全担当教員に占める割合

現状では、高等学校は48%、中学校は18%である。これまで実施してきた英検準1級以上の受験料補助に加え、平成28年度からは、TOEIC-IP受験を組み入れた研修を実施することで、担当教員の英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに、外部検定試験の受験機会を増やす。平成28年度においては、高等学校は63%、中学校は40%を、平成29年度においては、高等学校は75%以上、中学校は50%以上を目指すこととする。

②求められる英語力を有する生徒（中学校3学年は英検3級程度、高等学校3学年は英検準2級～2級程度）の全生徒に占める割合

現状では、高等学校、中学校ともに36%である。4技能を総合的に育成することを目標に、英語検定のみならず外部検定試験の受験を一層奨励する。平成28年度においては、高等学校は46%、中学校は45%を、平成29年度においては、ともに50%以上を目指すこととする。

③「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

現状では、高等学校は設定100%、公表22%、達成状況の把握34%、中学校では設定22%、公表5%、達成状況の把握8%である。平成28年度は、実践事例集の配布や研修を通して研修協力校や先進校の事例を共有し、設定・公表及び達成状況の把握のいずれも100%を目指すこととする。

④授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合

現状では、高等学校は31%、中学校は61%である。英語担当教員の指導力等向上研修や県総合学校教育センターでの研修に加え、特に、高等学校においては新たに、教科書の効果的な活用法や文法指導と言語活動を一体的に行うための方法に関する情報を発信し、英語表現Ⅰ及びⅡにおける言語活動の充実を図り、平成28年度は57%を目指す。平成29年度においては、高等学校は65%以上、中学校は75%以上を目指すこととする。

⑤パフォーマンステストの実施状況

現状では、高等学校におけるスピーキングテスト及びライティングテストの平均は、ともに年間0.5回である。中学校はスピーキングテストの平均が年間3.0回、ライティングテストが年間2.0回である。高等学校においては、研修協力校や英語教育推進リーダーとの一層緊密な連携のもと、パフォーマンステストを始めとする評価法に焦点をあてた研修を実施し、平成28年度においては、スピーキング、ライティングとも平均で年間1.5回を目指すこととする。中学校は平成28年度、平成29年度ともに、年間5回を目指すこととする。

⑥授業における英語担当教員の英語使用状況

現状では、高等学校は28%、中学校は45%である。高等学校においては、訪問指導の際に各種研修への参加や互見授業を奨励するとともに、英語教育推進リーダーによる研修実習を通して、英語による授業のノウハウの蓄積・共有と実践を図り、平成28年度においては85%、平成29年度においては100%を目指すこととする。中学校においては、次期学習指導要領の改訂に向け、平成28年度においては80%、平成29年度においては90%を目指すこととする。

⑦県内の全ての学校における研修実施回数、研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

英語教育推進リーダーや県総合学校教育センター及び県内6教育事務所の指導主事と連携し、平成28年度においては、高等学校はのべ16回、のべ300名（107%）、中学校はのべ14回、のべ470名（114%）、小学校はのべ11回、のべ330名（8%）の受講を目指す。特に、県総合学校教育センターとの連携をより密にし、センター主催講座の受講者数増加を目指すこととする。

(3) 研修の体系と内容の具体

平成28年度の研修

- ①これからの授業を考える！中学校・高等学校英語科研修講座
(5月、中学校及び高等学校20名、県総合学校教育センター)
東京大学大学院教授 市川伸一氏による講演や演習を通して、21世紀型能力を目指した授業のあり方について考え、「教えて考えさせる授業」について研修する。2日目は、教科横断的な視点から、各自の授業を見つめ直す。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ②教科化へつなぐ小学校外国語活動研修講座(6月、小学校30名、県総合学校教育センター)
東京家政大学教授 太田洋氏による講義や演習を通して、小学校における外国語活動の授業づくり及び英語を楽しく学ばせるための指導について研修を行い、外国語活動を推進するための基礎的な能力を養成する。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ③中学校英語指導法研修講座(6月、中学校30名、県総合学校教育センター)
文教大学教授 阿野幸一氏による講義や演習を通して、学習指導要領の趣旨に沿った英語指導法とコミュニケーション活動に関する研修を行い、外国語担当教員としての指導力向上を図る。特に中高の連携を意識した内容とする。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ④研修協力校における研究協議会(6月・9月・2月、中学校及び高等学校のべ105名)
授業公開等を通して、英語による言語活動の実践例を共有するとともに、教科書の効果的な使用法や高校一年次に焦点をあてた中高連携のあり方、CAN-DOリストで設定した目標の達成状況を把握するためのパフォーマンステスト等について協議する。東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ⑤実践言語活動高等学校英語科講座(6月、高等学校20名、県総合学校教育センター)
東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏による講義や演習を通して、英語力定着のための英語指導法について幅広い知見を身に付けさせ、担当教員の指導力の向上を図る。特に生徒の主体性を育むコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの言語活動及び観点別評価について扱う。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ⑥英語担当教員の指導力等向上研修①②③(①6月、高等学校31名②11～12月、高等学校50名③2～3月、高等学校40名、県総合学校教育センター)
英語教育推進リーダー(堤孝教諭及び伴一聡教諭ほか計4名)による外国語担当教員を対象に、中央研修に基づいた内容で研修を実施する。(①平成28年2月に2日間、残り1日分を6月に実施する。②③新たな受講者を募り、それぞれ3日間の研修を実施する。)また、アンケートにより研修の評価を行うとともに、教師の英語指導力の変容を把握する。
- ⑦英語コミュニケーション能力向上研修
(7月、中学校及び高等学校140名、県総合学校教育センター)
TOEIC-IP受験と受験に向けての講座を研修に組み入れ、中学校及び高等学校の教員が合同で受講する場を新規に設け、県全体の担当教員の英語力向上を図る。また、研修協力校による詳細な実践発表を通して、中高連携に関わる現状と課題、そして「6年間で行う英語教育」という視点を共有する。東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏(予定)からの指導・助言をもらう。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ⑧外国語指導助手指導力等向上研修
(11月、ALT及びALT担当教員200名、ホテル青森)
外部専門機関(大学)の講師(未定)による講義・演習や外国語指導助手と小学校・中学校・高校の外国語(活動)担当教員合同のワークショップ、各教員による事例発表及び小中高の連携についての研究協議を行う。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ⑨英語担当教員の指導力等向上研修④～授業と評価の一体化～
(12月、高等学校20名、県総合学校教育センター)
英語教育推進リーダー(當麻進仁教諭)を講師とし、生徒の4技能を適切に評価するための手法について考え、指導力の向上を図る。また、アンケートにより研修の評価を行う。
- ⑩外国語担当教員海外研修(1月、高等学校10名、韓国パジュ英語村)
パジュ英語村トレーナーによる講義・演習や韓国等海外の英語担当教員とのワークショップを通して、4技能を総合的に育成するために授業改善を図るとともに、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。また、アンケートにより研修の評価を行う。

平成29年度以降の研修

平成28年度に準じる。ただし、目標管理については、前年度の英語教育実施状況調査の結果を踏まえ、年度ごとに必要な修正を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月	<ul style="list-style-type: none"> 青森県高等学校教育研究会外国語部会役員会での平成27年度英語教育実施状況調査の結果及び平成28年度の事業説明 これからの授業を考える！中学校・高等学校英語科研修講座（中学校及び高等学校20名・県総合学校教育センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 東京大学大学院教授 市川伸一氏
6月	<ul style="list-style-type: none"> 教科化へつなぐ小学校外国語活動研修講座（小学校30名、県総合学校教育センター） 中学校英語指導法研修講座（中学校30名、県総合学校教育センター） 研修協力校における第1回研究協議会（中学校及び高等学校35名、県立田名部高校） 実践言語活動高等学校英語科講座（高等学校20名、県総合学校教育センター） 英語担当教員の指導力等向上研修①（高等学校31名、県総合学校教育センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 東京家政大学教授 太田洋氏 文教大学教授 阿野幸一氏 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 英語教育推進リーダー（堤孝教諭、伴一聡教諭）
7月	<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーション能力向上研修（中学校及び高等学校140名、県総合学校教育センター） 	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC研修講師（未定） 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏（予定）
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> 研修協力校における第2回研究協議会（中学校及び高等学校35名、県立田名部高校） 	<ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏
10月		
11月	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当教員の指導力等向上研修②（高等学校50名、県総合学校教育センター） 外国語指導助手指導力等向上研修（ALT及びALT担当教員200名、ホテル青森） 	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育推進リーダー（堤孝教諭、伴一聡教諭） 大学教授（未定）
12月	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当教員の指導力等向上研修②（高等学校50名、県総合学校教育センター） 英語担当教員の指導力等向上研修④～授業と評価の一体化～（高等学校20名、県総合学校教育センター） 	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育推進リーダー（堤孝教諭、伴一聡教諭） 英語教育推進リーダー（當麻進仁教諭）
1月	<ul style="list-style-type: none"> 外国語担当教員海外研修（高等学校10名・韓国パジュ英語村） 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国パジュ英語村トレーナー
2月	<ul style="list-style-type: none"> 研修協力校における第3回研究協議会（中学校及び高等学校35名、県立田名部高校） 英語担当教員の指導力等向上研修③（高等学校40名、県総合学校教育センター） 青森県高等学校教育研究会外国語部会役員会での平成27年度英語教育実施状況調査の結果に基づく平成28年度の取組の成果報告 	<ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学名誉教授 金谷憲氏 英語教育推進リーダー（未定）
3月	<ul style="list-style-type: none"> 英語担当教員の指導力等向上研修③（高等学校40名、県総合学校教育センター） 事業完了決算報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育推進リーダー（未定）
<p>【その他の取組】 中学校・高等学校の外国語担当教員の外部検定試験（実用英語技能検定試験第2回及び第3回検定）の受験料を補助する。</p>		

※これからの授業を考える！中学校・高等学校英語科研修講座、教科化へつなぐ小学校外国語活動研修講座、中学校英語指導法研修講座、実践言語活動高等学校英語科講座、外国語担当教員海外研修は県費で実施する。

